

OKoTaC 通信

オコタック

2015 年 6 月 20 日発行

NO.23



P 2 NPO活動報告(1)

外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会

『できました！渡日生用教材 part2 (理科中学2年生用)』

P 3 大阪府立高校の特別枠校紹介④

『長吉高等学校』(大阪市平野区)

P 4 特別寄稿

『外国にルーツを持つ若者の就労をめぐる課題』

P 5 NPO活動報告(2)

第5回オコタック総会、および特別講演

P 6 Air Mail メキシコ便り㊶

『チワワ州クリアル』

P 7 みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ③

【エピソード3】失礼にならない日本語とは？

P 8 イベント情報





おおさか子ども多文化センター 活動報告(1)

外国にルーツをもつ子どもの教育支援学習会 『できました！渡日生用教材 part2（理科中学2年生用）』開催

昨年開催した渡日生用理科教材の学習会が好評であったこと、さらに新しい2年生用教材が完成したことなどから、6月13日（土）、ヒューライツ大阪セミナー室にて、標記学習会を開催しました。当日は、地域ボランティアや教員、教育委員会関係者など計23名が参加されましたが、その中から今回は、事務局の安田がレポートします。（編集部）

「できました！渡日生用教材 part2（理科中学2年生用）」は、昨年7月30日に行われた学習会の続編です。講師は前回に引き続き、この教材の作成者である井上泰雄さんでした。

お話の内容の面白さもさることながら、外国にルーツを持つ子どもたちへの教育に対する熱い思いや信念が感じられるご講義に引き込まれ、あっという間に前半が終了しました。

後半は、グループ別に、指導対象とする生徒像を具体的にシミュレーションし、「この教材をどのように使用するか」を話し合うワークショップ形式で行われましたが、こちらも活発な意見交換がなされ、時間が足りない程でした。2時間半という限られた時間でしたが、たくさんの気づきや学びを得る充実した機会だったと思います。当日の学習会の様子を一部分ですがお伝えします。

まず初めに印象に残ったのは、「理科と日本語のかけ離れた関係（あるいは経験）が、教材開発に役立った」という言葉でした。筆者は日本語教師なのですが、理科に限らず、日本の教科書を見る時には、ついつい「ことば（日本語）」それ自体の語彙や表現、文法構造に注目してしまいます。しかし、この教材の“つくり”はそうではありません。従来の教科書にある文章、つまり「ことば」の部分にこだわるのではなく、最大限「ことば」を削ぎ落とした先にあるもの（→「重要語句」ということになります）を生かす“つくり”なのです。

簡単な日本語に直して日本語で考え、「疑問→実験&観察→結論」としたのは、教科のポイントがわかりにくく、テストの点数につながらないという結論に達したことが、この教材作成の大きなヒントになったということ

とでした。すなわち、わかりやすい日本語に書き換えるという従来の教材の作り方では得点に結びつかないことがわかり、重要語句を中心にすえて、逆にそこから日本語を学べる教材を作ることにしたという、この視点が、私にとっては目からウロコでした。学校現場の教科指導経験者ならではの視点に触れることの大切さや面白さを、改めて感じました。そして、「この教材の最大の目標は『点！点！点！成績アップ！』とばかり点をとること』と聞いて、母国でよくできた生徒ほど、日本の学校でのテストの点数が振るわないことで心が折れそうになっているケースを思い出しました。



各グループの話題を共有

この研修のサブタイトルにもあった「ことばがわからないだけ、勉強がわからないんじゃない！」という叫びは、今回のような教材を使用することで、確実に減っていくのではないかと思います。そのためには、たくさんの方々がまずこの教材を知り、実際に様々な現場で使ってみることが、次の一歩なのではないでしょうか。

（事務局・安田乙世）



教材を片手にわかりやすく説明される井上先生



大阪府立高校の特別枠校紹介④

～ 長吉高等学校 ～

長吉高校は、2001 年度より「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学選抜」を実施し、外国にルーツを持つ生徒を受け入れて今年で 15 年目となります。

現在、外国にルーツを持つ生徒は 133 人。中国(台湾含む)にルーツを持つ生徒が一番多く、二番目に多い

のがフィリピンルーツの生徒です。続いて、ベトナム、韓国・朝鮮、ブラジル、タイ、ネパール、ペルー、コロンビア、ボリビア、インド、ラオス、トルコ、インドネシアと 14 の国と地域に分かれています。133 人という数は、6 人に 1 人の割合で外国ルーツの生徒が在籍していることを表しており、学校の廊下や教室では、日本語だけでなく、いろいろな言葉が耳に飛び込んできます。授業でも WS（ワールドスタディ）や GS（グローバルスタディ）といった科目があり、日本人生徒も外国ルーツの生徒も一緒になってアジアを中心とした国々の文化や言葉を学んだり、帰国・渡日生について学んだりしています。



昨年度 40 周年記念式典にて民族舞踊の発表

外国ルーツの生徒の中には日本語がまだまだ不十分な生徒もいます。特に 1 年生の国語の授業では対象の生徒で独自のクラスを組み、日本語を学びます。さらに国語だけでなくほかの教科でもそのクラスで授業を受け、日本語とその教科の勉強をします。彼らはそれぞれ来日の時期や背景が異なることから、その日本語のクラスは初級・中級・上級の 3 展開で行います。



近隣の保育園で多文化交流。獅子舞で子ども達を驚かせた

また長吉高校では、週 2 時間「ネイティブ・カルチャー」という授業を行っています。ここでは各言語のネイティブの先生にに来てもらい、母語（または継承語）や母文化について学びます。また言語だけでなく、母国の料理をみんなで作って食べたり、民族舞踊にチャレンジしたりもしています。生徒たちにとって、ルーツに基づくアイデンティティの確立や、日本語での学習言語の確立のために、母語伸長はとても重要だからです。この授業では、普段は日本語だけの環境に緊張している生徒も、母語を話せる場所としてリラックスして授業を受けることができます。

他にも、外国ルーツの生徒たちは「多文化研究会」に所属し、週 1 回日本語の勉強会を行っています。さらに、学校行事や校外で母国の文化や民族舞踊を紹介する活動も行っています。高校の文化祭では、各国の料理を作ったり、ダンスを発表したり、また小学校にゲストティーチャーとして出向き、自分の国の文化や言葉、遊びを教えたりしています。

長吉高校の生徒たちは文化の違いを日々、肌で感じ、そして違うことの“喜び”“楽しさ”を感じながら成長しています。外国ルーツの生徒の中には、今まで自分のルーツを隠し、外に出してこなかった生徒もいますが、長吉高校に来てからは、たくさんの先輩や友達と出会うことで、自分たちの国に誇りを持ち、生き生きと学校生活を送っています。

〒547-0015 大阪市平野区長吉長原西 3 丁目 11-33 TEL 06-6790-0700

(大阪府立長吉高等学校 教諭 森田千博)

特別寄稿 「外国にルーツを持つ若者の就労をめぐる課題」

戎 妙子（プール学院大学 非常勤講師、
おおさかこども多文化センター会員）

— 人間を人間たらしめるものは何か。極論すれば、それはお金と言語である。—

『言語と貧困—負の連鎖の中で生きる世界の言語マイノリティー』のあとがきを、編著者である山本忠行氏はこのような少し衝撃的な言葉で始めています(山本、2012)。

そしてそれに続けて、「…現代社会では、知識や情報の質と量が生活の豊かさにつながる。言語と文字の障壁によって、知識や技術を学ぶこともできず、さまざまな情報を利用できない人は、必然的に貧困状態に陥ってしまう」と、識字の重要性を指摘しています。

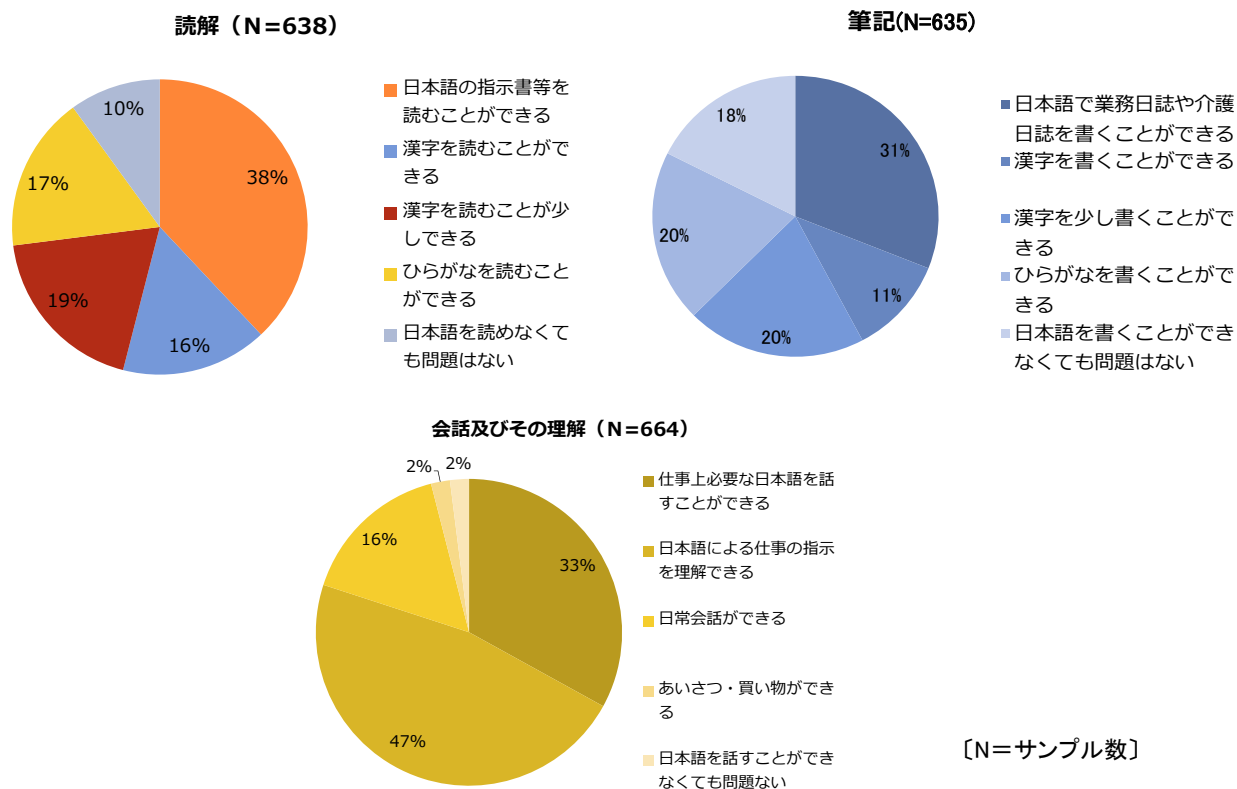
「言語」と「貧困」。一般の人には、にわかには結び付けがたいかもしれませんが、外国にルーツを持つ子どもたちに関わっていると、実感するケースが多々あるのではないのでしょうか。

残念なことに、私の知る限り現在日本には外国人の就労状況をつまびらかにするような統計的資料がほとんどありません。今回は少し古い資料になりますが、2012 年に発表された「外国人労働者の失業の現状」(渡邊、2012)を参考に、外国にルーツを持つ若者の就労をめぐる課題を見ていきたいと思います。

2010 年の国勢調査を基に、日本人と外国人の年齢別階級別の労働力率と完全失業率(男女計)を比較したデータを見ると、押し並べて外国人のほうが失業率が高く、特に、15 歳～19 歳の若い年齢層にいたっては、4 ポイントも高い状態です。「失業状態」にあるということは、学校にも在籍していないということになります。

安定した就職先を見つけるためには、下図に示すような高い日本語能力が求められます。そして就労期間は、在留資格の種類やその人の属性に関わらず、この日本語能力が大きく影響していることも、渡邊氏の外国人当事者に対する聞き取り調査からわかっています。

【企業が外国人労働者に求める日本語能力】



よく外国にルーツを持つ子どもたちには、生き方のロールモデルがないことが問題だと言われますが、近年、ようやく高等教育機関でも外国にルーツを持つ学生が散見されるようになってきました。次の段階は、彼らのその日本語・母語の両方を含めた「言語力」を「きちんとした仕事」に繋げてみせること。そうすれば、あとに続く後輩たちの日本語を勉強するモチベーションも上がるかもしれません。

将来の安定した雇用のために、外国ルーツの若者の日本語能力を上げるには？ そして、留学生の枠組でも日本人学生の枠組でもない学生たちの就職を後押しする仕組み作りとは？——次号では、これらの課題について具体的に考察していきます。

(つづく)

○参考文献

山本 忠行 (2012)『言語と貧困—負の連鎖の中で生きる世界の言語的マイノリティー』、松原好次・山本忠行編著、明石書店

渡邊 博顕 (2012)「資料シリーズ No.112 外国人労働者の失業の現状」独立行政法人労働政策研究・研究機構

<http://www.jil.go.jp/institute/siryo/2012/112.html> (2015 年 5 月 31 日確認)



おおさかこども多文化センター 活動報告(2)

第5回オコタック総会、および特別講演

5月30日(土)、ヒューライツ大阪セミナー室にて、オコタックの年次総会を開催しました。委任状36名を含む58名の出席で総会は成立、村上理事長の挨拶ののち、事業報告・決算報告、理事の選任(再任)、活動計画・予算案の順に報告・提案が行われ、すべて承認を得ました。

その後引き続き、府立長吉高校の高雅先生に「渡日生徒として、特別枠校教員として思うこと」と題してお話いただきました。参加会員のお一人、金野広美さんが感想を寄せてくださいましたので以下にご紹介します。

★

★

★

高さんはふくよかな、やさしい笑顔で、少し緊張されながら、写真やスライドを使い、ご自身が日本に来たころの話を静かに語り始められた。

高さんが日本に来たのは5歳、瓜破東小学校、喜連中学校、扇町総合高校、近畿大学と進み、現在は長吉高校で英語教師として教鞭をとられているわけだが、ここまでの道は平たんではなかったと言われる。小学校の時はたまたま「帰国した子どもの教育センター校」であったため、日本語教室にすぐ移動でき、日本語習得も進んだそうだが、その後の中国と日本の行き来のなかで感じた、どちらの言語も十分ではないという気持ちは、

現在もぬぐえないと言われる。また在留資格の関係で、奨学金を申請できなかったり、英語の勉強のため留学したくても行けなかったり、数々の制約のなかで、並々ならぬ努力をされ今の職業につかれた。

そんな高さんが教師になりたいと思われた動機は、高校で落ちこぼれになった時にやさしく見守り、支えてくださった先生がいらしたことです。そしてそれに加え、外国ルーツの子どもたちが集う「こどもひろば」でボランティアとして働いた経験も、子どもに勉強を教える楽しさを高さんに教えてくれたそう。今、高さんが教師として伝えたいことは、外国ルーツの子どもが陥りやすい自信の持てなさを克服するため、恥ずかしがらず、人の目を気にせず、自分自身をしっかり主張してほしいということだった。

長吉高校では授業が始まって2か月、まだまだ教師生活に慣れない中、1年生の担任を持ち、自分の教えた授業で「先生よくわかったよ」という子どもの言葉が本当にうれしいと語る高先生。その満面の笑顔を見ながら、私は同じ境遇の子どもたちの大きな灯台になってほしいと強く思った次第です。



笑顔がすてきな高さん



Air Mail ～さまざまな国の人々・文化・子どもたち～

海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑦「チワワ州クリール」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

女性ばかりが働き、男は酒ばかり飲んでいるのを文化だから仕方がないと開き直るタラウマラの男たち。そんな彼らに心底、腹立ちを感じつつ、異文化を超えたところにあるだろう普遍的な男女の良好な関係性についてスペイン語で言えないもどかしさを抱えながら、クリール近郊を訪ねました。



ここには高さ 30 メートルのクサラレ滝や、レコウアタという銅溪谷の一角に温泉が湧き出しているところや、周りを大きな岩や松林に囲まれたアラレコ湖など、多くの景勝地があります。そして、この一帯はなんと奇妙な形をした大岩がごろごろと横たわり、その岩の間にぽつんと、まるで掘立小屋のような民家が点在していました。

そこでまず、クサラレ滝にいったのですが、イグアスの滝を見たあとなので、正直いってとてもしょぼかったです。しかし、アラレコ湖は静かでとても美しい景観の中にありました。ボートを漕ぎ出し、隅々までゆっくり見て回りました。湖岸にはタラウマラの家があり、馬が草をのんびりと食(は)んでいました。そしてこの湖の近くに彼らが住む洞窟があるというので行ってみました。

洞窟は確かに人が住んでいた形跡があり、火を使った跡なのでしょうか、岩が黒こげになっていましたが、中ではみやげ物が並べられ、女の子がチップを入れてくださいとばかりに、かごを持って入り口に立っていました。ギエスカと名乗ったその子に「カマ(ベッド)はどこにあるの?」と聞いてみました。するとあそこを指さしたのは、洞窟の前にある木造の家でした。洞窟はタラウマラが現在も住んでいるというふれ込みで観光客を集めていますが、彼らは実際は別の家に住み、住居跡の管理をしているという感じでした。だって中には鶏がいっぱいて、ごみだかなんだかよくわからないビニール袋がたくさん置いてあるばかりで、とても人が住んでいるとは思えにくい環境だったのです。なんだかがっかりしてしまいましたが、気を取り直して、次にレコウアタの温泉に行きました。



温泉は谷底にあるので、バスの通る大きな道路からは一時間半歩かねばならず、下りとはいえ汗びっしょりになりました。湯の温度はちょっとぬるめでしたが、毎日シャワーばかりの身にはやはり、♪「いい湯だなー、はははー」♪となります。それに溪谷がとても美しく、深い緑をながめながら、また、鳥の声を聴きながらの温泉はやはりほっこりして肩の凝りがすっかりとれました。しかし、「行きはよいよい帰りは怖い」ではありませんが、一時間半下ったということは、帰りはまた一時間半登らなければならないこととなります。これは大変、せっかく温泉で流した汗がまた吹き出て、汗だくになります。でも悪運の強い私です。自家用車でここまで来ていたメキシコ人の夫婦に上まで乗せてもらえることになり、「行きはよいよい、帰りはよいよい」になりました。



みんなの日本語、みんなで NIHONGO ! ③

伊東 和子（おおさかこども多文化センター 会員・日本語教師）

【エピソード 3】 失礼にならない日本語とは？

「先生、今日も楽しかったよ。けど、勉強したこと、すぐ忘れる。年取る、だめね」

「でも、毎週ここに来ておしゃべりすることは、楽しいでしょう」

「うん、楽しい。来週も来るよ」

中国帰国者（残留邦人）のクラスでは、こんな会話が毎回交わされます。学習者は日本に帰国してから長い人では 20 年以上になる一世で、平均年齢は 70 歳以上。年齢、日本語の学習経験や日本での学習機会が少なかった、などの理由で、この方たちの日本語力を上げるのはなかなか大変です。会話では、ほとんどが普通体、いわゆる“ため口”で話すことから抜けられません。



進学や就職、近所付き合いなどの生活場面で不都合がないようにという配慮から、日本語教育では、まず丁寧体（ですます体）で話すように指導します。教師も丁寧体で学生に話しかけます。帰国者の方たちは、それを徹底する機会がないまま日本で生活してきた結果、普通体で話すことしかできなくなっているのです。

こちらは留学生のクラス。文法テストの返却時。

学生「（隣を見て）リンさん、いつも 100 点。すごい」

私「人のことはいいけど、ユエさん、あなたはどうですか？」

学生「悪い。気にしない」

初級クラスの会話ではありません。中上級になっても、単語だけだったり、文にならない話し方をする学生が少なくないのです。社会に出る前にどうにかしたいと教師は思います。（会話体以前に、教師にそういうこと言うか、という問題もありますが）



一方、日本の生活に溶け込んで、日本語を普段から使っている人の場合。ある団体の中国人スタッフからの依頼メールです。

「打ち合わせの日程調整をさせていただきます。こちらの都合から言うと、火曜日と金曜日が調整しやすいです。併設のカフェのランチはおいしいですよ。よかったら味見してみませんか」

正しい文法で丁寧に書いていますが、微妙に押しつけがましく感じます。皆さんはどうでしょうか。

日本人でもこんなケースが。ある中学の校長先生に電話で連絡をとろうとしたときのことです。校長先生が不在だったので、職員（日本人です）に伝言を頼みました。「では、お戻りになりましたら、伊東から電話があったとお伝えください」「はい、校長先生が帰っていらっしゃったら、お伝えします」

日本語の待遇表現は、相手との関係性に左右されるものですが、時代とともに使い分けも変化しているように思います。さて、どこまで許容するか、日本語教師の悩みではありますが、外国にルーツを持つ子どもに対し日本語指導で向き合う際には、将来社会に出てから困らない日本語という視点も、ひとつ意識しておきたい点かもしれません。



イベント情報 ～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

OKoTaC セミナー 『外国人と日本人がとらええほん活動』

日本語を母語としない人々と東京で多言語での読み聞かせ活動をされている石原弘子さんをお招きし、いろいろな国の言葉の絵本の楽しさについて話していただきます。

いろいろな国の方と、大人も子どもと一緒に、絵本を使っていろんな言葉や文化の体験をしませんか？

絵本の好きな方、絵本を通じた多文化交流活動に興味のある方、どうぞご参加ください。

【日 時】 7月29日(水) 午後2時～4時半

【場 所】 大阪市立総合生涯学習センター 第4研修室(北区梅田1-2-2-500 大阪駅前第2ビル5階)

【定 員】 30人(先着順) 多文化な絵本に関心のある大人、子ども (※保育はありません)

【参加費】 無 料

★お名前・住所・電話番号・メールアドレス・母語 を明記の上、下記の奥付欄を見てメール・電話・FAXのいずれかでお申し込みください。



夏休み「府立高校生の中華圏観光客案内通訳ボランティア」が始まります

近年、中国・台湾・香港などからの観光客の増加が話題になっています。そこでOKoTaCは大阪市交通局と府内の高校と協力し、「難波」「梅田」「心斎橋」「日本橋」「天王寺」の切符売り場前で案内通訳ボランティアを始めます。詳細はHPや次号の「OKoTaC 通信」でお知らせします。

(表紙に6月の試行の際の写真掲載)

新ホームページを公開しました

これまでみなさまにNPO法人 おおさかこども多文化センター(OKoTaC)の情報をお送りしてきたホームページ(アドレスは下記に掲載)が新しくなりました。ページのあちこちにOKoTaCのマスコット「ころちゃん」が登場します。また、これを機会に新たにFacebook(新ホームページにリンク有り)も始めました。

みなさん「いいね！」押してね。



NPO 法人 おおさかこども多文化センター (OKoTaC) 代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜ じく けいり))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(ワガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

